

1. 交通結節点計画のあり方

1-1. 交通結節点整備の重要性

(1) 交通結節点の役割・機能

駅前広場等の交通結節点整備は、都市交通対策上の重要な施設であり、また、交通結節点を中心とした市街地の形成の促進にも寄与する。

- 交通結節点に関わる交通の円滑化
 - 公共交通による移動全体のサービスレベル向上
- 結節点地区の拠点性向上
 - 都市の再生・再構築

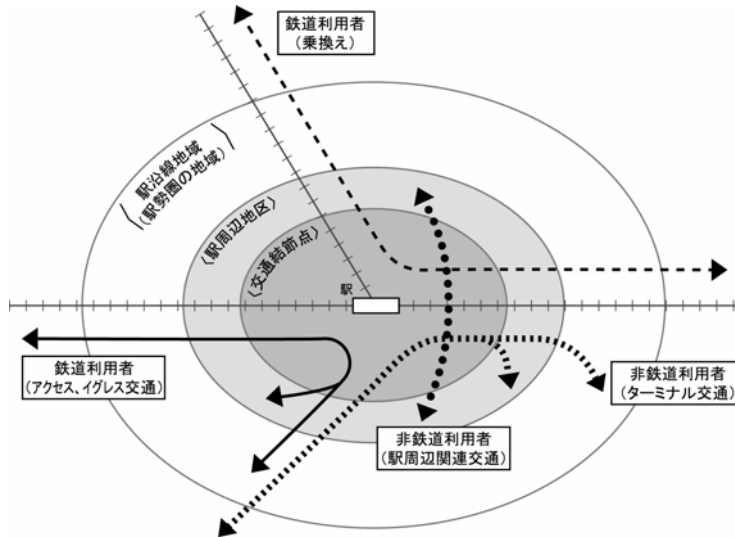


図 結節点に関わる交通の分類

■鉄道利用者

- ・ 鉄道駅相互の乗り換え交通
- ・ 駅周辺地区や駅勢圏地域に目的を持つ鉄道利用交通

■非鉄道利用者

- ・ バス相互間の乗り換えなどを行う鉄道利用以外のターミナル交通
- ・ 交通結節点ゾーンを通過する駅ビルや周辺施設相互の移動の徒歩トリップなどの交通

(2) 都市の将来像と交通結節点

○都市計画区域マスタープラン

- ・都市の将来像及びその実現に向けての道筋の明確化

○市町村マスタープラン

- ・まちづくりの具体性ある将来ビジョンの確立
- ・地区別のあるべき市街地像
- ・地域別の整備課題に応じた整備方針
- ・地域の都市生活、経済活動等を支える諸施設の計画等



○都市交通計画のマスタープラン

- ・将来道路ネットワーク
- ・公共交通ネットワーク
- ・優先整備計画
- ・短期施策の方針、TDM施策
- ・実現に向けた取り組み方針



P T 調査、OD 調査



○都市圏の課題に対応した交通計画

- ・都市計画道路網の見直し
- ・公共交通網再編
- ・L R T 計画
- ・交通結節点計画
- ・都心交通計画等

1-2. 交通結節点に関する都市計画

(1) 交通結節点の構成

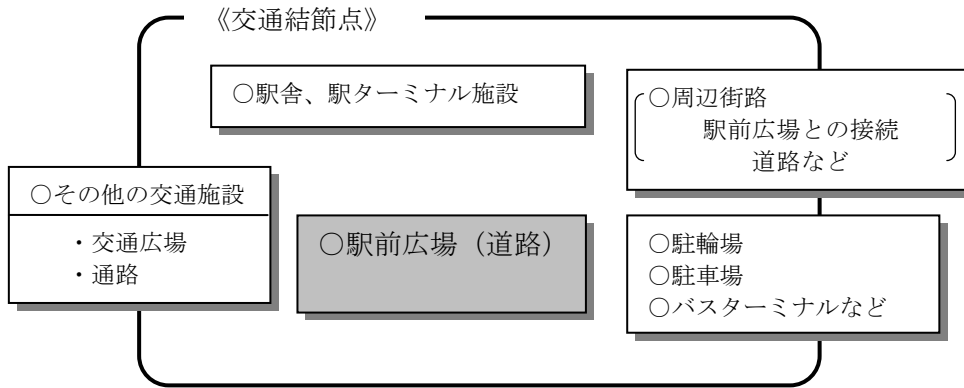


図 交通結節点を構成する都市交通施設

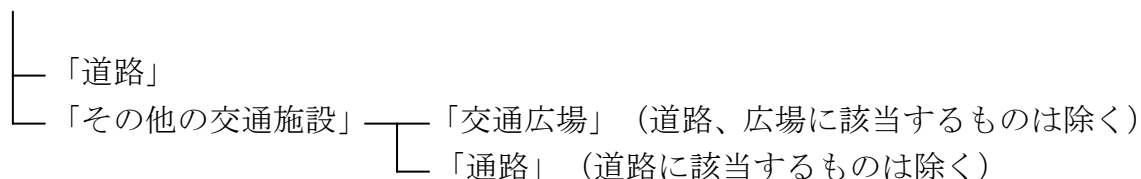
(2) 交通結節点整備の契機

駅周辺の再開発、土地区画整理等の市街地整備の一環として計画・整備をすることや、連続立体交差事業や新交通システム等の交通基盤整備などを契機として計画・整備されることが多い。

→ 関連する施設や事業を一体として、都市計画の手続きを進めることが望まれる。

(3) 都市計画の考え方

都市施設 : 都市計画法第11条第1項第1号



【都市計画運用指針第5版 平成18年11月 国土交通省】より抜粋
運用指針 p 192

「鉄道駅等交通結節点においては、複数の交通機関間の乗り継ぎが円滑に行えるよう、必要に応じ駅前広場等の交通広場を設けるものとし、周辺幹線街路と一体となって交通を処理するものについては道路の一部として都市計画に定めることが望ましい。」

運用指針 p 202

「通路は、公共的な通行の用に供する施設であって道路とすることが適切ではないものについて都市計画に定めるものである。」

運用指針 p 202

「交通広場については、道路の一部を構成する交通広場については法第11条第1項第1号における「道路」に含めて都市計画決定することとするが、歩行者空間を中心とするもの等それ以外の交通広場については、その他の交通施設の「交通広場」として都市計画を行うことが望ましい。」

2. 駅前広場計画について

2-1. 「駅前広場計画指針」

(1) 「駅前広場計画指針（建設省都市局都市交通調査室監修）（平成10年）」について

本指針は、これまでの駅前広場の歴史や役割を踏まえ、これからの駅前広場計画に求められる基本理念、機能、面積および配置の考え方についてとりまとめたものである。指針の策定にあたっては、特に次の視点を重視して検討を行っている。

- ・ 駅前広場は単に交通処理の場ではなく、都市空間のひとつであるという認識のもと、これからの駅前広場の機能を明確化する。
- ・ 画一性を避け、都市や地域のニーズに即した自由な発想による駅前広場計画ができるようにする。
- ・ 都市空間の有効活用や重層化した都市機能への対応という視点から、駅前広場計画のあり方を示す。
- ・ 高齢者や障害者を含めた広場利用者の多様な利用形態に配慮する。

■駅前広場計画指針の取扱い

- ・ 駅端末交通としてバスなどの公共交通サービスが導入される鉄道駅全般を適用の対象としており、地下鉄や新交通などの駅で同等な機能を有する駅についても準用されることを想定している。
- ・ 駅前広場計画においては、機能の分担や一体性について、駅舎や周辺市街地など周辺部についても十分に検討する必要があるが、本指針は、道路空間としての駅前広場を主な計画対象としている。

詳細につきましては、

「駅前広場計画指針（建設省都市局都市交通調査室監修）（平成10年）」をご参照ください。